

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	経営戦略研究科長	作成部局	経営戦略研究科
-----	----------	------	---------

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)  
博士課程後期課程の教育研究目標

(狙い内容)  
学識を備えた人材を厳しく陶冶し、博士学位授与者の質の保証・活躍を図るとともに、本学の教育研究の充実、さらには本学の学問的地位の向上を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

昨今のオーバードクター問題の悪化等の社会経済情勢に鑑み、最終学歴の究極形である博士号を、内容の伴ったものとして輩出する。

<変更時記入欄>

(タイトル)先端的ビジネス課題解決に向けた高度専門職業人の育成

(狙い内容)

経営学と会計学を基礎に置き、社会との関係を重視しながら、先端的なビジネス課題に対し、高度な理論研究と実践的応用研究の成果を通じて社会に貢献し得る人材の育成を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

理論と実践の両面から先行研究を踏まえた高度で独創的、かつ実社会に資する研究成果をあげたものに対し、博士学位を授与する。

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

- ・「タイトル」を、「狙い内容」を表す表現に改めるため
- ・「狙い内容」の表現をブラッシュアップするため
- ・「教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)」の表現をブラッシュアップするため

2. 達成度評価

評価指標	博士課程在籍者(x)による査読付学術論文数(y)	評価尺度	A : $y > x \div 3$ B : $y = x \div 3$ C : $y < x \div 3$ D : $y < x \div 6$
	<変更時記入欄> 当該年度の博士課程後期課程在籍者、大学院研究員の合計人数(x)に対する当該年度の博士学位授与数(y)		<変更時記入欄> A : 当該年度の博士学位授与数が、当該年度の博士課程後期課程在籍者および大学院研究員の合計人数を標準在籍年限の3で割った数よりも多いかイコールである B : Aは満たさないが、当該年度の博士学位授与数が、当該年度の博士課程後期課程在籍者および大学院研究員の合計人数を最長在籍年限の6で割った数よりも多いかイコールである C : AおよびBは満たさないが、当該年度の博士学位授与数が、当該年度の博士課程後期課程在籍者および大学院研究員の合計人数を9で割った数よりも多いかイコールである D : A、B、Cのいずれも満たさない

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点	評価 尺度: A~D	A	A	D	D	C	B	A
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	年度末時点での在籍者28名の3分の1である9.3を、当該年度までの査読付論文数10が上回っている	2016年度の在籍者25名の3分の1である8.3を、当該年度までの査読付論文数21が上回っている	2017年度の博士課程後期課程在籍者、大学院研究員の合計人数(29)に対する博士学位授与数が3.2本を上回っている。				
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	A	A	C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	年度末時点での在籍者28名の3分の1である9.3を、当該年度までの査読付論文数10が上回っている	2016年度の在籍者25名の3分の1である8.3を、当該年度までの査読付論文数19が上回っている	見込み 2017年度の博士課程後期課程在籍者と大学院研究員の合計人数は29名である。それに対する博士学位授与者数は6である。				

【2017年度の進捗状況について】

新たに定めた目標に合致するよう評価指標を見直した。なお、2017年度実績は現時点では未定のため見込み値を記入している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2017年度より新たに定めた目標に合致するよう評価指標を見直した。よって上記の表は、2015・2016年度は旧指標に対する実績が記入されており、2017年度は新指標に対する見込み値を記入している。

2017年度の実績状況の確認

2017年度の実績は、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示**

- ・ 新たな行動計画が策定されており、評価できます。(A)
- ・ 概ね順調に進展しています。(C)
- ・ 行動計画(新規①)の進展が望めます。(D)
- ・ 新たな博士学位授与数の目標を達成するように期待しています。(E)
- ・ 博士学位(乙号)輩出に向けた制度整備の進展が期待されます。(F)
- ・ 状況に合わせた新規行動計画の策定は適切です。(G)
- ・ 達成度評価の評価尺度として数式が示されていますが、すぐには理解できないものです。文章化して示したほうがいいのではないのでしょうか。「指導している学生の査読付学術論文への採択数の向上」の評価尺度についても同様です。(I)
- ・ 新たな行動計画が策定されたことが評価できます。十分な入学生の確保及び適切な学位授与という好循環が行われていることが窺えます。(J)